

2015年度 卒業式・大学院学位授与式 式辞

皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんの新たな門出に対し、早稲田大学を代表して、心からのお祝いを申し上げるとともに、今日に至るまでの長い間、物心両面から卒業生・修了生の皆さんを支えてこられたご家族・ご友人の皆さまに、心よりお慶びを申し上げます。

本年3月の卒業式・学位授与式を迎えられたのは、学部卒業生 9,312名、芸術学校卒業生 44名、大学院修士課程修了者 2,070名、大学院専門職学位課程修了者 614名、博士学位受領者 212名（課程による博士 185名、論文による博士 27名）、合計 12,252名の多数にのぼります。そのうち、学士 258名、修士 361名、専門職学位 52名、博士 56名、合計 727名の方が海外からの留学生です。

本日、この場に出席されているのは、これらの卒業生・修了者を代表する素晴らしい成果・業績をあげた学生・院生および博士学位取得者であり、心からの讃辞を送らせていただきます。

このほか、昨年9月には、学部 732名、修士課程修了者 372名、博士学位取得者 70名など合計 1266名が本学を巣立たれていますので、2015年度卒業生・修了生の総数は 13,518名で、その 10.4%にあたる 1,408名が留学生であります。

これらの卒業生の中には、去る1月15日に長野県で発生したスキーバス事故で逝去された国際教養学部生3名も含まれています。本来であれば、皆さんとともに卒業式に参加し、喜びを分かち合ったはずの尊い命が突然奪われたことは残念でなりません。亡くなられた皆さまに謹んで哀悼の意を表するとともに、負傷された方々の一日も早い快復をお祈り申し上げます。

この不慮の事故を思うとき、改めて人生は不測の事態の連続であるということを実感せざるを得ません。振り返れば、今年の学部卒

業生の大部分が入学された2012年4月は、前年3月の東日本大震災と原子力発電所事故による混乱が国中を覆っていました。その後も、世界各地で多くの被害を出す自然災害が毎年のように発生しており、地球温暖化の影響も懸念されています。

自然災害に限らず、先進諸国においては、グローバル化の進展や少子化に伴う格差の拡大や財政難といった問題に悩まされる一方で、発展途上国における貧困や食糧難も深刻さを増しています。こうした事態を背景に、地域紛争やテロリズムが蔓延し、環境汚染など人類社会の持続性を脅かす地球規模の課題が、ますます深刻化しています。

また、技術の進歩・情報化の進展は急速であって、オックスフォード大学のマイケル・オズボーン博士は、今後10~20年程度で約47%の仕事が自動化される可能性が高いと言っています。

これから皆さんが歩み出そうとしている世の中は、このように、変化が激しく、不確実かつ予測困難なものとなっています。

しかし、このような厳しい時代であるからこそ、私は、早稲田大学を卒業した皆さんに大きな期待を寄せています。ご承知のとおり、本学の建学の理念を謳った「早稲田大学教旨」は、「学問の独立」、「学問の活用」と並んで、学問の成果を私利私欲や一党一派の利益のために用いるのではなく、世のため人のために役立てようという利他的な精神をもって広く世界で活躍する「模範国民」を育成することを、本学の目標としています。そして、本学の創立者・大隈重信は、「専門知識を吸収するだけに汲々とするのではなく、生涯を通じて『道徳的人格』を養う」ことこそが最も重要であると強調しています。

そして、この理念を受け継いで、数多くの卒業生たちが、世界の至るところで、また、政治、経済、言論、学術、芸術、スポーツなど、ありとあらゆる分野において大いに活躍してきたことで、早稲田大学出身者に対する高い信頼が築かれてきました。

昨年末に英国の大学評価機関「QS社」が、世界723の大学の卒業生の活躍度等を評価した「Graduate Employability Rankings 2016」を発表し、早稲田大学に、国内第1位、世界で33位の高い評価を与えているのも、その一証左と言えるでしょう。

困難な事態に直面したときに、自らの地位や利益に執着するのではなく、世のため人のために最大限の力を尽くすという点で高く評価されている本学卒業生は枚挙に暇がありません。

例えば、映画やオペラの公開によって改めて注目を集めている杉原千畝は、第二次世界大戦中、駐リトアニア領事代理として、人道的な観点から、本国の指令に反して命のビザを発給し続けました。これによって杉原は職を辞することになりましたが、彼に命を救われた6000名にも及ぶユダヤ系難民を通じて、彼の想いは時代と地域を越えて受け継がれ、大きく花を開かせています。杉原が発行したビザを手に日本を経てアメリカに渡り、金融先物市場の父と称えられるに至った本学名誉博士・シカゴ・マーカンタイル取引所名誉会長レオ・メラメド氏は、杉原の遺族とともに、本学を訪れ、杉原千畝顕彰碑に花を捧げ、感謝の意を表されました。

同じく本学出身の外交官で、2003年にイラクで殉職した、奥克彦もまた、人道支援に命をかけた信念の人でした。イラク戦争終結後でまだ危険が残るイラクに赴き、復興支援活動の最前線で中心的な役割を果たしている最中、凶弾に斃れ、惜しくも45歳の生涯を閉じました。奥は、本学ラグビー蹴球部に属していましたが、外交官になる夢を実現すべく、2年生の夏に退部しました。その後、外交官任官後に留学した英国オックスフォード大学で再びラグビー部に所属し、日本人初となる正選手になるなど、知力だけでなく体力と胆力をも兼ね備えた魅力溢れる人物でした。彼が、心から平和を願い、常にイラク市民や子供たちのための目線を大切にしていたことは、彼が亡くなる直前まで外務省のホームページに書き続けていた『イラク便り』に如実に示されています。困難な地で、強い使命感と情熱をもって行動した彼は、人間らしい温かい心を持ち合わせた外交官として、国際社会で極めて高く評価されています。

昨年、イングランドで開催されたラグビー・ワールドカップにおいて、本学校友の五郎丸歩選手、畠山健介選手や現役学生の藤田慶和選手が大活躍したことは皆さまよくご存じのことと思います。その開幕直前にオックスフォード大学は、早稲田大学ラグビー蹴球部を招いて「奥克彦記念杯」と銘打った対抗戦を開催しました。この

ことから分かるように、オックスフォード大学において、奥は、一貫して大きな尊敬を受け続けています。

これら二人の外交官は、大きなリスクを冒しながら自らの信念に従って果敢に行動したという点で共通しています。西洋には恵まれた才能と環境の下に生まれた真のエリートたるリーダーは、率先して社会への責任を果たす義務があるとする「noblesse oblige」の伝統があります。進んで世のため人のために尽くすという、犠牲的精神・利他的精神は、本学建学の理念に通じるものであり、杉原と奥はまさにその実践者にほかなりません。

もっと身近なところでも、例えば、本学の学生たちが、東日本大震災の被災地の復興のために今日まで一貫して支援活動を続けてくれています。その一環として、今般、早稲田学生ボランティア RINC が、5年間のボランティア活動の記録を取りまとめ『箱崎半島から見た未来』（早稲田大学出版部）と題する書籍を上梓するに至ったことは、早稲田大学伝統の精神が学生たちにしっかりと受け継がれていることを示す逸話として特筆されるべきものと思います。

大隈重信は1914年の卒業式の祝辞で、高等教育を受けることができた者の社会的責任と、学び続けることの重要性について次のように述べています。

「唯学ぶ丈けではいかぬ。学ぶと云ふよりは稽古するのである。習ふのである。習ひ性となる。而して之れは学校に居る時だけではない。人生一生を貫いて修養しなければ直ぐ過ちに陥るのである。知識は無限のものである。茲に於て本を読めと云ふのである。一方には行を正しくし、自己の境遇に依つて、自己の当さに為すべきことを完全に為す。茲に始めて学問の独立と云ふ此精神が現はれるのである。諸君は高等の国民である。五千万中の何十万と云ふ中の一人である。何としても、国民を率ゐなければならぬ模範的人である。然らば、普通人以上に自から重んぜなければならぬと思ふ。」

大隈は、書をほとんど残しませんでしたので、早大生にもほとんど大隈の考えが理解されていません。これは大変残念なことです。

そこで、本学は、この度、『大隈重信演説談話集』（岩波文庫）を編纂し、早稲田大学校友会は、新入会員歓迎の意味も込めて、これを本年度の学部卒業生全員に贈呈することにいたしました。ぜひとも座右の書として、大隈の、そして早稲田の精神を今後も身近に感じ続けてください。

現代社会は、科学技術が急速に発達し、社会構造も大きく変革しつつあり、早稲田大学草創期と同じように大きな歴史的転換点に立っているように思います。皆さんも、これから、誰も考えたことのないような難問に次々と遭遇することとと思います。そうした難問に対しても、自分の頭で考え、解決の方向性を見出し、多様な人びとと協働して果敢に実行していく力がなければ、社会を牽引していくことはできません。また、今日の社会では、画一的で均質な人材ではなく個性豊かで独創的な人材が求められているとも言われています。

さらに、今日の高度な知識基盤社会においては、質・量ともに高い知識・技能・情報処理能力等を身につけ、それを日々更新していくことが要求されています。「人生一生を貫いて修養」すべしとした大隈の言葉を持ち出すまでもなく、生涯学び続けることがますます重要になっていることは明らかです。

本学もまた、新しい時代にふさわしい教育を目指して、教育目的・教育手法等を抜本的に改善するとともに、皆さんが必要なときに何時でも必要なことを学びに帰ってこれるように、高度専門職業人の養成、社会人教育・生涯教育などの拡充に向けた改革を続けているところです。

皆さんが、本学での学問・研究を通じて得た知力・体力・人間力を基礎として、これからも不断の学びと精進を重ねることによって、洋々たる前途を切り拓くことを祈念するとともに、グローバルリーダーの一人として大いに活躍してくださることを心より期待し、私からのお祝いの挨拶とさせていただきます。

皆さん、ご卒業、修了おめでとうございます。

以 上